

御挨拶

—— つながり合う・支え合う組織に ——

令和4年度より、新潟県国際理解教育研究会会長を拝命しました戸田道治(とだ みちはる)と申します。

当会は、在外教育施設経験者だけでなく、国際理解教育に関心をもった人たちで組織した会です。在外教育施設での実際の経験を基にしながら、これから海外へ挑戦しようとしている先生や現在赴任中の先生、帰国を迎える先生等とつながり合い支え合うことで、海外子女教育の普及と振興に寄与することを目的としています。



会員が経験した国・地域は幅広く、帰国した会員は、勤務校の児童生徒と海外の児童生徒とをつなぐ等、国際理解教育の振興に熱心に取り組んでいます。在外教育施設への挑戦意欲に関わらず、国際理解教育に関して実践したいこと等があれば、お気軽に御相談ください。

情報化や国際化と言われるようになって、ずいぶん時間が経過しています。加えて変化が激しく正解のない時代に向かっているとされています。感染禍での教育活動をどのように推進して質を高めていくかは、私たち教員自身が問われている資質・能力です。現在も、そもそも日本の教材・教具を入手しにくい在外教育施設で、その国の異なる感染症対策に沿って、独自に工夫し試行錯誤しながら教育活動を展開している会員がいます。時折寄せられるその情報に接すると、会員だけでなく海外で生活する児童生徒の努力と熱意に頭が下がります。

まずは私たち教員自身が、真の情報に触れ、真偽を確かめ、価値を判断し、問題を見付ける力が大切です。そのためにも実際にリアルに触れることは、教員としての資質・能力を確実に高めます。

どんなに時代が進んでも、人と人がつながり合い、支え合うことが人の幸福につながります。それを子どもたちにどう伝えるか、何を考えさせるかがますます重要になるでしょう。

また、再任用や定年延長など、教員の働き方も変わる時代です。在外教育施設においても、シニアの役割が高まっています。

県内の多くの会員はもとより、全国海外子女教育国際理解教育研究協議会とも連携を図りながら活動を進めています。